

きたまち

奈良県指定有形文化財
旧細田家住宅
(きゅうほそだけじゅうたく)



奈良町の
ちょっといいところを
見て知る秋の1週間
—きたまち・ならまち・高畑・京終・紀寺—
奈良町見知ル

①歴史・概要

- ・約300年前、17世紀末から18世紀初め頃の建物と推定される、奈良市内で最も古い農家のひとつです。
- ・屋根は、大和の農家によくみられる「大和棟(やまとむね)」。ただし、これは、明治以降に改造された可能性が高いようです。
- ・昭和46年に県指定文化財に指定され、同48年に市の所有となり、同48～49年度の保存修理で間取り・壁・建具等が当初の姿に復原されました。

②見どころ:かつての農家の暮らしぶり

- ・屋根は草葺(かつては麦わら、現在は麦わらが入手困難なため茅を使用)。天井裏の広い空間に、葺替用のわらを保管していました。
- ・入口の脇にウシゴヤがあります。牛は農作業の大切なパートナーでした。
- ・5連のかまどと、低くて長くて太い梁。煙が室内側に広がるのを梁上の壁が防ぎます。「煙返し」と呼ぶこの巨大レンジフード、大和の農家に広くみられますが、町家にはありません。両者を見分けるポイントです。

東大寺と雑司町

この付近は「雑司町(ぞうしちょう)」といいます。奈良時代の東大寺建設のための役所「造東大寺司(ぞうとうだいじし)」を略したとも、東大寺の雑用役人が住んでいたからともいわれます。

向かいの「北御門町(きたみかどちょう)」は、東大寺の北門があったことから。五劫院には、江戸時代の大仏再建に生涯を捧げた公慶上人のお墓があります。

このように、この地域は東大寺と深い関わりをもちながら、歴史を紡いできました。



奈良町絵図 江戸時代中期
(史料保存館蔵)

奈良町周縁部の農家は、道路に面する主屋の正面に格子を付けるのが一般的ですが、この付近では敷地正面に塀を建てていて、独特の趣があります(細田家も元は土塀でした)。

これも、他の奈良町周縁部の農家の近くには町家が建ち並んでいたのに対し、この付近には土塀で囲まれた東大寺子院が建ち並んでいたからなのかもしれませんね!

旧細田家住宅 活用PROJECT

"ちょっと昔のくらし
とすてきにふれる"
イベントを開催 詳細は→

